

PAX Xにおける図書館の使命—情報の確度と鮮度の両立



山梨大学学長補佐，国際交流センター長，総合研究部工学域 教授

マオ シャオヤン
茅 暁陽

文化，経済，政治，軍隊，宗教といったかたちで計られる，社会の「パワー」。その変遷（パワーシフト）について，P. Kennedyは自書*The Rise and Fall of the Great Power*（1987）のなかで言及し，『パワーシフトはその時代の主な情報伝達手段によって決定づけられ，覇権が及ぶ領域の面積と持続時間は各々情報伝達の速度に比例・反比例する』と述べています。私の大学院時代の恩師である國井利泰（東京大学名誉教授，福島県立会津大学初代学長）は，A. Lucianiとの共著*Cyberworlds*（1988）のなかで，このシンプルなパワーシフト・ルールを根拠として，現代の混沌を説く驚くべき予想を立てています。

下表をご覧ください。強大な一国の覇権による相対的平和を意味する「PAX」を歴史的に俯瞰してみます。東ローマ帝国時代（PAX Romana）の主な情報伝達手段は口コミです。人は時速10キロで歩けます。これに，東ローマ帝国千年の歴史のなかで最大領地面積が $2 \times 10^6 \text{km}^2$ であった史実を組み合わせると計算の基礎としてみます。産業革命時代（PAX Britannica），蒸気機関の発明により人々の移動は10倍速くなりました。P. Kennedyのルールからはじき出される数値 $2 \times 10^7 \text{km}^2$ は，実にイギリスの植民地の総面積に相当します。そして列強の植民地支配は百年の単位でしか維持されなかった近代史も説明できます。続くアメリカの時代（PAX Americana）に入ると，飛行機の利用により人々はさらに10倍の速度で移動できるようになりました。同様に算出される $2 \times 10^8 \text{km}^2$ という数値は奇しくもNATO加盟国の総面積（地球の表面積の4割）に合致し，アメリカ一国が世界を主導してきた期間は一世紀には及ばずという実感も見事に言い当てているのです。

PAX	主な情報伝達手段(速度)	覇権が及ぶ領地面積	覇権の持続時間
PAX Romana	徒歩 (10km/時)	$2 \times 10^6 \text{km}^2$	1000年
PAX Britannica	蒸気機関 (100km/時)	$2 \times 10^7 \text{km}^2$	100年
PAX Americana	飛行機 (1,000km/時)	$2 \times 10^8 \text{km}^2$	10年
PAX X	インターネット (10^9km /時)	地球の表面積の500倍	5分

そして，国という覇権単位を越えた存在になろうとしている「PAX X」。その情報伝達を司るのは間違いなくインターネットです。それまでとは比較にならないほど高速に情報を伝送することができるインターネットは，実際に地球から昼と夜の区別を無くしました。その



平均的な情報転送速度を仮に 10^9 km/時としてみましょう（ICTは今もなおこの速度すら劇的に向上させつつあります）。P. Kennedyのルールがそのまま成り立つと仮定すれば、PAX Xの領域面積は地球の500倍にまで及びますが、しかし5分しか持続しないという計算結果が導かれます。

この「國井の仮説」に対しては様々な解釈が可能ですが、私はまさにグローバル化に向けて重要な指針を示唆していると考えます。価値観の多様さと急速な変化が顕著な現代こそ、一人ひとりが国際的視点に立って、互いの文化を認め合うとともに、洪水のように押し寄せ続ける情報を上手く選別し、それを自らの的確な判断に効果的に役立て、世界へ向けて洗練されたメッセージを再発信することを心がけていくべきなのです。それを支援するために、人類の智慧の結晶とも言うべき図書館は、なお一層研ぎ澄まされた使命を帯びることになります。

情報は「確度」と「鮮度」という二面性を持ち合わせます。図書館の旧来からの蔵書は、長い年月をかけて篩いにかけてきた、きわめて確度の高い情報、いわば知識の宝庫です。この度新設される「グローバルコーナー」*は、まさに利用者に対してきわめて高い確度で上記の国際的視点を涵養する格好の場を提供することになりましょう。

その一方で各地の図書館は、情報の鮮度の確保にも目を向け始めています。実際本学の附属図書館で平成26年度から設置された学び合いの促進スペース—「ラーニングコモンズ」もその好例ではないでしょうか。そして、国際交流センターと協働して運営される「G-フィロス・サテライト」は、留学生と日本人学生が互いの文化を理解し、外国語を学び合う共創学習スペースです。インターネット上のバーチャルな空間以上に、対話的に学び合うライブな実空間は利用者に対して新鮮な実感や強力なインセンティブを与えることを期待しているのです。

このように、本学の附属図書館には絶え間ない改革により、現代を生き抜く利用者に対してより多面的に情報を提供し、智慧を磨き合う場としての中核的役割を担い続けていただきたいと願っております。



*グローバルコーナーについて

4月初旬、本館2階ホール東側に設置します。海外からの留学生、海外へ留学する学生の両方をサポートし、国際的な視野を広げてもらえるよう、留学生用の図書や英語の多読本、留学に関する図書などを置く予定です。